

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 29 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20530701

研究課題名（和文）日本の近代化と女性キリスト者の知的形成・文化貢献

研究課題名（英文）Formation of the Christian intellectual culture contribute to the modernization of Japanese women

研究代表者

樽松 かほる（KUREMATSU KAORU）

桜美林大学・心理・教育学系・教授

研究者番号：90112656

研究成果の概要（和文）：

YWCA の組織史に関する研究と YWCA の活動に関係した人物史研究の二つの面で研究成果を挙げた。組織史に関する研究においては、第一に日本 YWCA 機関誌『女子青年界』の書誌的整理と誌面の分析を通じて YWCA の活動の特色を明らかにできた。第二に東京 YWCA 機関誌『地の塩』の総目次の作成と書誌分析を行い、東京 YWCA の活動の全体像を把握できた。人物史に関する研究においては、大竹満洲子と木村雪子の 2 名のライフヒストリー研究を進展することができた。

研究成果の概要（英文）：

Overview of the research results are as follows

- (1) Analysis of the "Joshiseinenkai" Japan YWCA journal
- (2) Table of Contents publish the total of the "Tsinoshio " journal Tokyo YWCA
- (3) Stream life study of Yuki Kimura and Mashuko Otake

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	400,000	120,000	520,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：YWCA、女性キリスト者、近代化とキリスト者、女性史

1. 研究開始当初の背景

周知のように、戦前女性の高等教育への進出のルートは極めて狭隘であった。近年、戦前の女子高等教育に関する実証的な歴史研究はかなり進み、研究の成果は蓄積されつつある。例えば、湯川次義『近代日本の女性と大学教育』（2003 年）によれば、1925 年に大学に在籍していた女子学生・生徒の総数は官立・私立を含めて 13 名に過ぎない。いわば、こうした日本の閉ざされた社会の内において、戦前の女性たちにとり、留学が「大学で

の学問」の学習を保障する有力なバイパスであったことは推測に余りある。

ところで、アメリカに限定しても戦前何名くらいの女性が留学したかのデータは今日全く不詳である。国費女子留学生の実態に関する概説的な研究すら未拓である。留学した女性に関する研究は、津田梅子や河合道など著名な個人の人物史研究にほぼ限られていたと思われる。一個人の伝記的研究からアメリカでの留学体験が日本社会や日本の教育にどう関わったかを考察することはもち

ろん意味ある作業ではあるが、個別な事例研究だけでは留学による固有な学習体験を相対化し、検証していくには限界がある。留学体験者の比較研究を俟たなければならないであろう。

研究では、同一の大学に留学した女性集団を対象とし、それぞれのライフヒストリーを整理し、学んだ側からの視点にたつて留学体験の社会的機能を考察することによって、近代日本の女性と大学教育の問題を明らかにすることを目指した。調査対象として、アメリカの中でも最もリベラルな大学として知られているオーバリン大学を選んだ。同大学には戦前19名の日本人女性が留学している。19名の中で、小泉郁子、木村雪、大竹満洲子などが在籍している。オーバリン大学での調査を踏まえて、2004年、共著（樽松、堤稔子、高橋静江）として「戦前オーバリン大学に留学した日本人女性のライフヒストリーに関する比較研究——オーバリン大学アーカイブズの資料を手がかりとして——」（『桜美林論集』第31号）を発表した。その後、共著（樽松、堤稔子、高橋静江）「資料：大竹満洲子のオーバリン大学留学——オーバリン大学アーカイブズ同窓生ファイルから——」（『桜美林論集』第32号、2005年）、共著（樽松、堤稔子、高橋静江）「大竹満洲子の留学時代——神戸女学院所蔵の史料から——」（『桜美林論集』第33号、2006年）を発表した。木村雪と大竹満洲子の2名に共通していたYWCAの活動との関係に注目し、社会教育の領域であるYWCAと日本のキリスト者女性教育との関係を明らかにしたいと日本のYWCAの活動に注目し、本研究を構想した。

なお、本段階では木村雪、大竹満洲子に関しては以下のような知識しか得られなかった。

木村雪（1903～2002年）、1923年フェリス女学院専門部卒業、1935年から37年までオーバリン大学に在籍、37年に同大学神学部M.A.号を取得、47年ハワイ大学で社会学M.A.取得し、51年にシカゴ大学でPh.D.を取得した。YWCAの仕事に関わり、後、ハワイ大学研究員、ホノルルで生涯を終えた。

大竹満洲子（1910～1955年）、1933年神戸女学院専門部卒業、1938年から1940年までオーバリン大学に在籍、1939年に神学部M.A.を取得、1940年に神学部B.D.を取得、1951年にエール大学でPh.D.を取得し九州大学専任教師に就任、旧帝大で女性初の専任教師となった。オーバリン入学以前ハートフォード神学校在籍し、小泉郁子に続いて二人目のB.D.取得者になった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は「日本の近代化と女性キリスト者の知的形成・文化貢献」というテーマ

のもとに、YWCA（日本キリスト教女子青年会）の活動を分析し、近代日本女性たちがどのようなキリスト教的知性を形成し、彼女たちのキャリアや生き方を通じてどのような社会貢献によって日本の近代化が推し進められたかを実証的に明らかにする。

YWCAは、聖書研究による信仰の形成とキリスト教精神に基づく社会的関心、社会奉仕、交流をモットーとした青年女子を対象として組織された善導を目的とした修養組織、啓蒙運動である。宗教と教育の問題が重要な教育課題として認識されている今日、YWCAの活動とその活動に参画した女性たちのその後の足跡を歴史的に明らかにする作業は、宗教教育による人間形成の可能性にひとつの検証を与えることができると考えられる。検討対象の時期は、日本にYWCAが創設された1905年から機関誌『女子青年界』が廃刊となる1944年までの間とする。

(2) 本研究は以下のような具体的な目標を持って進めた。一つは女性のキリスト教的知性形成と自立を目標としたYWCAの事業活動に関する詳細な調査を行う。いま一つは、活動に参画した女性たちのその後の足跡調査を通じて彼女たちのキャリアコースの比較検討をする。これら二つの面からの調査を通じて、YWCAの歴史的意義を明らかにすることを研究目的とした。

3. 研究の方法

(1) 日本YWCA及び東京YWCAの機関誌の分析を行い、YWCAの活動を通じて、女性キリスト者の知的形成を明らかにする作業に関しては次のような具体的な方法で展開した。日本YWCA『女子青年界』の総目次をデータベース化し、執筆者一覧、記事分類などを時代ごとに行い、日本YWCAの活動の実態を明らかにした。

東京YWCA機関誌『地の塩』の全紙を東京YWCAより収集し、記事を詳細に検討しながら、総目次を起し、目次から東京YWCAの活動の実態を検討した。さらに、『地の塩』の刊行は1926年から1939年（全113号）であるが、東京YWCAの設立は1907年である。機関誌刊行までの間、すなわち、1907年から1927年までの間の東京YWCAの活動を把握するために、『女子青年界』の誌面から関係記事を抽出して一覧化する作業を行った。上記の作業を通じて1907年から39年までの東京YWCAの活動の実態を検討することが可能となった。

研究会を通じて日本YWCA及び東京YWCAの活動の実態についての検討を重ね、その成果の一部を論文等を通じて公表した。

(2) 海外・国内調査を行い、YWCAの活動家であった大竹満洲子と木村雪に関するライフコース研究を以下のように展開した。

研究初年度において、海外調査を行った。オーバリン大学、シカゴ大学、ハートフォード大学、エール大学において、大竹満洲子及び木村雪に関する資料調査収集を行った。

予想外に大量の関係資料を入手できた。木村に関してはシカゴ大学での学びの実態が明らかになった。大竹に関しては、最初の留学先のハートフォード大学での学生生活、入院した病院等が明らかになった。最も収穫があったのはエール大学でピース関連資料を多数収集できた上、ドクター論文も得る事ができた。

それら入手した英文資料を翻訳整理を行い、木村雪（堤稔子担当）と大竹満洲子のアメリカでの勉学での実態をかなり明らかにすることができた。それらの研究成果の一部は、関東学院法学研究所紀要に投稿した。

なお、連携研究者影山礼子が代表に関東学院大学法学研究所、研究プロジェクトに参加し、2010、11年に同研究所の研究助成を受けた。堤はハワイでの木村に関する調査を更に進め、樽松は、大竹のエール大学に提出したドクター論文の翻訳や分析を進めた。

4. 研究成果

4年間にわたった本テーマにおける研究成果を要約すると以下の3点である。

(1)「日本の近代化と女性キリスト者の知的形成・文化貢献」を日本におけるYWCAの活動を通じて、明らかにする作業に関しては、日本YWCA機関誌『明治の女子』、『女子青年会』の1907年の創刊から1944年の戦争期の終刊までの間の総目次の一覧化、記事分類、執筆者一覧などのデータ整理を行い、37年間のYWCAの活動を誌面の整理分析から明らかにすることができた。

発表した成果：

樽松かほる著「日本YWCA機関誌『明治の女子』の書誌分析」(桜美林論考 心理・教育学研究、一巻、59～78、2010年)の目次構成は以下の通りである。

はじめに

- ①、発行母体日本YWCAの沿革
- ②、雑誌の概観
- ③、誌面構成の変化
- ④、欄の特徴と傾向
- ⑤、執筆陣の傾向

むすび

影山礼子「昭和戦前期のキリスト教社会・キャリア教育の一側面—東京YWCA機関誌『地の塩』書誌分析—」、『関東学院教養論集』第21号、pp.29～48、2011年

樽松かほる「日本YWCA機関誌『女子青年界』にみるキャリア情報」(科研費研究成果報告書『近代日本人のキャリアデザイン形成と教

育ジャーナリズム』、pp.84～95、2011年)の目次構成は以下の通りである。

はじめに

(1) 雑誌の概観

- ①、発行母体日本YWCAの創設
- ②、発刊の趣旨
- ③、雑誌書誌
- ④、編集人
- ⑤、記事欄と執筆陣

(2) 看護婦と女工に関するキャリア情報

- ①、看護婦
- ②、女工、工女

おわりに

(2) 都市YWCAの一つである東京YWCA機関誌『地の塩』の総目次を刊行できた。

樽松かほる、科研費研究成果報告書『東京YWCA機関誌『地の塩』総目次』、2012年は以下のような目次構成である。

東京YWCA機関誌『地の塩』総目次

東京YWCA機関誌『地の塩』の書誌分析(影山礼子)

日本YWCA機関誌『女子青年界』(1904～1926年間)掲載の「東京YWCA」関係記事一覧(樽松かほる)

(3) YWCAの活動に参画していた木村雪、大竹満洲子のアメリカの調査し、ライフヒストリー研究を推進することができた。

樽松かほる「大竹満洲子のライフヒストリー研究—エール大学留学時代を中心に—」、『ジュリスコンサルタス』第21号、pp.119～134、2012年)

はじめに

- ①、略歴
 - ②、エール大学での留學生活
 - ③、博士論文の内容
- むすび

堤稔子「木村雪子とハワイ大学—日系人の研究に奉げた半生—」、『ジュリスコンサルタス』第21号、pp.103～118、2012年)

はじめに

オーバリン大学後ハワイに向かった経緯
ハワイ大学学生時代の木村：1938～47年
ハワイ大学研究員として：1954～68年

本助成による研究の展開途中において、連携研究者影山礼子が代表となり、関東学院大学法学研究所のプロジェクトの助成も受け、本助成による研究に関する追補的な調査が可能となり、木村、大竹に関する研究を更に向上させることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 樽松かほる、大竹満洲子のライフヒストリー研究—エール大学留学時代を中心に—、ジュリスコンサルタス、第21号、119～134、2012年、査読あり
2. 影山礼子、昭和戦前期のキリスト教社会・キャリア教育の一側面—東京YWCA機関誌『地の塩』書誌分析、関東学院教養論集、第21号、29～48、2011年、査読なし
3. 樽松かほる、日本YWCA機関誌『明治の女子』の書誌分析、桜美林論考 心理・教育学研究、一卷、59-78、2010年、査読あり

〔図書〕(計2件)

1. 樽松かほる、『東京YWCA機関誌『地の塩』総目次』、(私家版)2012年
2. 樽松かほる、日本YWCA機関誌『女子青年界』にみるキャリア情報、『近代日本人のキャリアデザイン形成と教育ジャーナリズム』、(私家版)84～95、2011年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

樽松 かほる (KUREMATSU KAORU)
桜美林大学・心理・教育学系・教授
研究者番号：90112656

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

影山 礼子 (KAGEYAMA REIKO)
関東学院大学・法学部・教授
研究者番号：20245286

(4) 研究協力者

堤 稔子 (TSUTSUMI TOSHIKO)
桜美林大学名誉教授